



2022年3月17日

各 位

会 社 名 株式会社プロレド・パートナーズ
代表者名 代表取締役 佐谷 進
(コード：7034 東証第一部)
問合せ先 取締役 CFO 柴田 英治
(TEL. 03-6435-6581)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の企業物価の動向や社会情勢等を踏まえ、以下のとおり、2021年12月15日に公表しました2022年10月期（2021年11月1日～2022年10月31日）の業績予想を修正することを2022年3月17日開催の取締役会において決議しましたので、お知らせいたします。

1. 当期の連結業績予想数値の修正（2021年11月1日～2022年10月31日）（単位：百万円）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	4,000	-	-	-	-
今回修正予想（B）	3,240	-	-	-	-
増減額（B－A）	-760				
増減率（％）	-19.0				
（参考）前期通期実績 （2021年10月期）	3,649	726	523	533	48.13

2. 修正の理由

当第1四半期累計の連結売上高は752百万円となり、前年同期比でマイナス約15%となりました。当該売上高は、主に下記の要因により、前回発表予想の前提を下回ることになりました。当四半期末以降、当期末までの期間においても同様の要因により売上高に影響が生じることが予想されるため、当期通期の業績予想を修正することになりました。

当第1四半期累計の連結売上高が前回発表予想の前提を下回ることになった主な要因は、①足元において急激に上昇しているインフレ圧力により、当社単体のコスト削減コンサルティング事業において当初想定していたコスト削減を実現することが困難となったほか、それに伴い一部の案件が中止となったこと、②当社グループの最適なファンド運営方法に関する再検討を行った結果、当期の連結業績予想の中で、当初、売上高として見込んでいた外部の投資家から受け取る管理報酬相当額につき、当期の連結業績予想から除外するに至ったことです。

まず①については、日本銀行公表の企業物価指数が本年2月に前年同月比で9.3%上昇しており、約40年ぶりのインフレ水準に達しております。同指数は本年2月まで9カ月連続で前年比5%超の上昇となり、1970年代の石油ショック以来となる長期間にわたりインフレ状態が継続しております。この結果、コスト削減に対する逆風が短期間で急速に強まっています。加えて、本年2月から勃発したロシアによるウクライナ侵攻により、エネルギー・コストはさらに上昇する見通しとなっており、コスト削減の事業環境は不透明感を増しております。

次に②については、当社は、当社の連結子会社である株式会社ブルパス・キャピタルがサービスを提供するドルフィン1号投資事業有限責任組合について、当社グループにおける運営方法を見直すことにより、外部の投資家から受け取る管理報酬相当額を売上高として計上する可能性があるとして当期初時点において想定しておりました。当第1四半期において、当社グループにおけるファンド運営の方法を再検討したところ、現状を維持することが最善であるとの結論に至ったため、当該管理報酬相当額を当期の連結業績予想から除外いたしました。

以上の理由から、当四半期末以降当期末までの期間において当初見込んでいた売上高を見直したところ、当期通期の連結売上高を4,000百万円から3,240百万円へ引き下げることになりました。

なお、当期通期の連結利益予想については、前回発表予想の公表時にご説明したとおり、当期第2四半期決算の開示のタイミングで公表することを予定しております。当社では、連結売上高の下方修正を踏まえて費用計画の見直しを行っており、現時点では当期通期ベースで若干の連結営業黒字を確保することを想定しております。

(注)上記見通しは、当社が現時点で入手可能な情報から得た判断に基づく将来の予想であり、実際の業績は様々な要素により、これらの業績見通しとは異なる結果となる可能性があります。

以 上